



**LIFENET**

LIFENET INSURANCE COMPANY



**LIFENET**  
LIFENET INSURANCE COMPANY

人生に、  
大切なことを、  
わかりやすく。

# ビジネスのための読書術

2016年10月22日  
ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長  
出口治明

- ◆ **はじめに & 森の姿**
- ◆ **人・本・旅**
- ◆ **ライフネット生命について**

# はじめに & 森の姿

# 1. 生きること、働くこと

## ◆人間は動物である

- 衣食足りて礼節を知る
- 人はパンのみにて生きるにあらず

## ◆世界経営計画のサブシステム

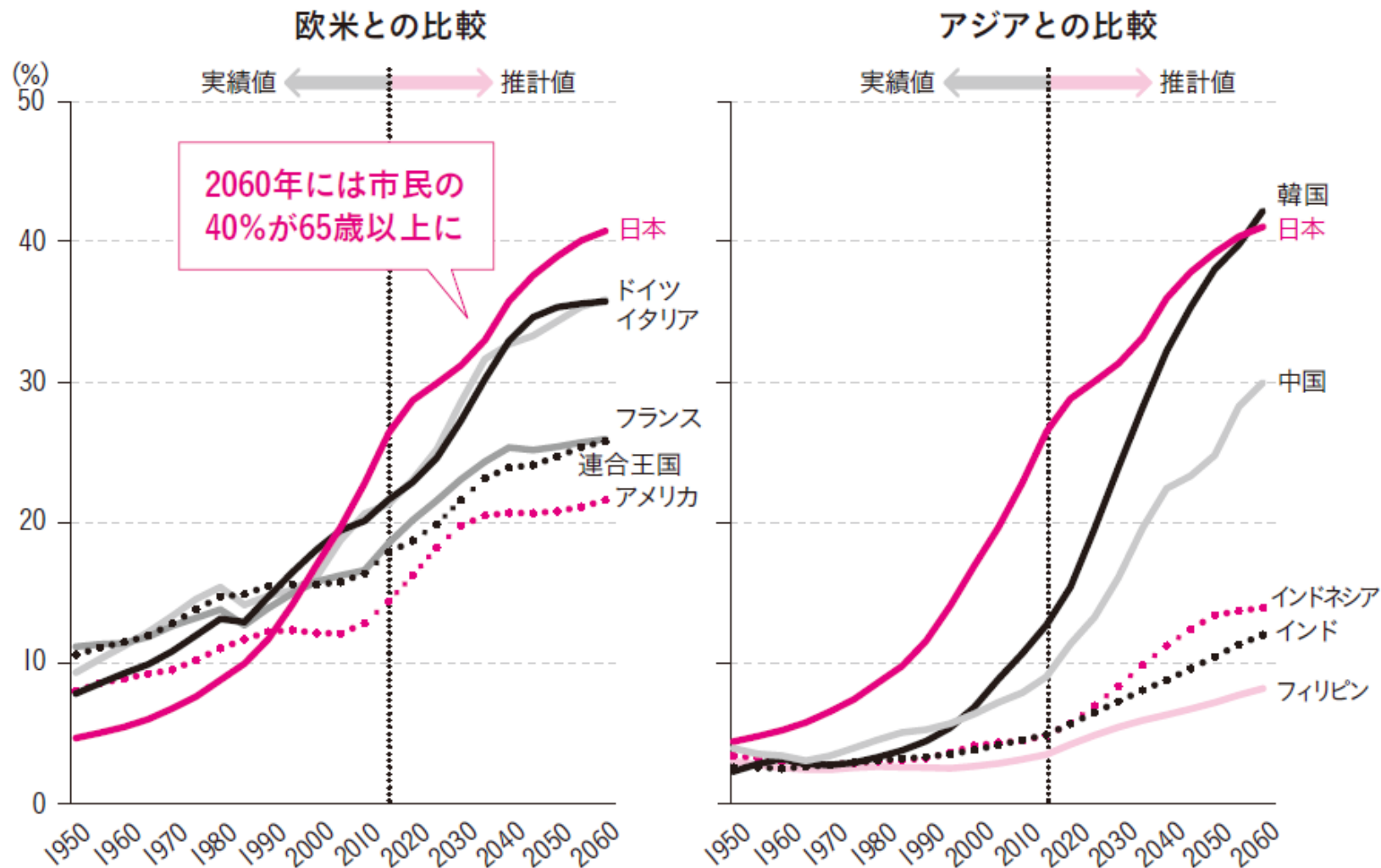
- この世界をどのようなものとして理解し
- どこを変えたいと思ひ
- 自分はその中でどの部分を担うのか

## 2. 森の姿を素直に

- ◆ 森の姿を素直に見なければ、一本の木ですら植えられない
- ◆ 人間はみたいものしか見ない、あるいは見たいように現実を変換して見てしまう動物(脳の構造)
- ◆ 記憶ですら、変換される
- ◆ タテ・ヨコ思考の重要性
- ◆ 数字・ファクト・ロジックのみで考える

# 3. 異常な少子高齢化①

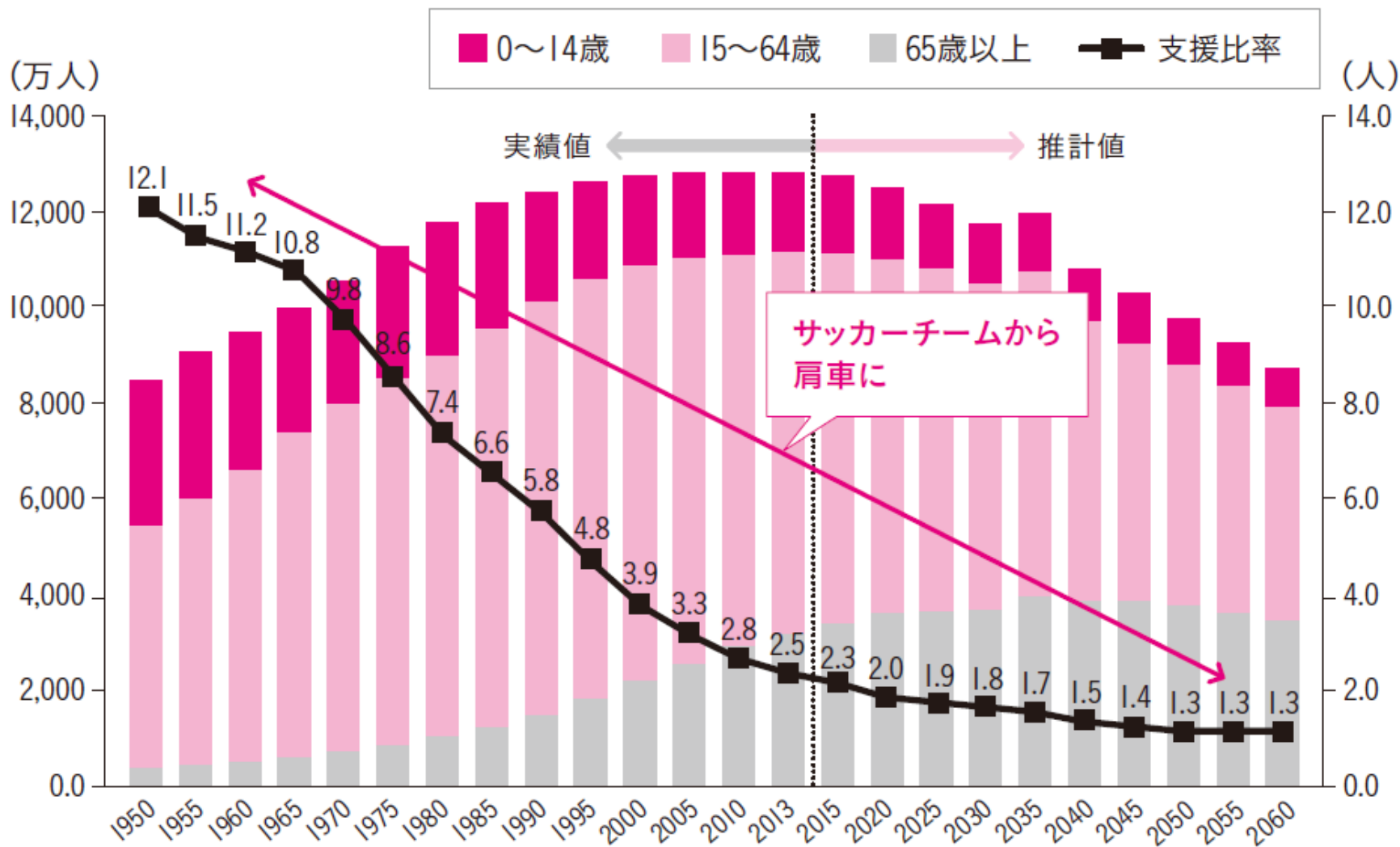
## 65歳以上の対総人口比



資料：内閣府「2014年版高齢社会白書」

# 3. 異常な少子高齢化②

日本の支援比率の推移と将来予測



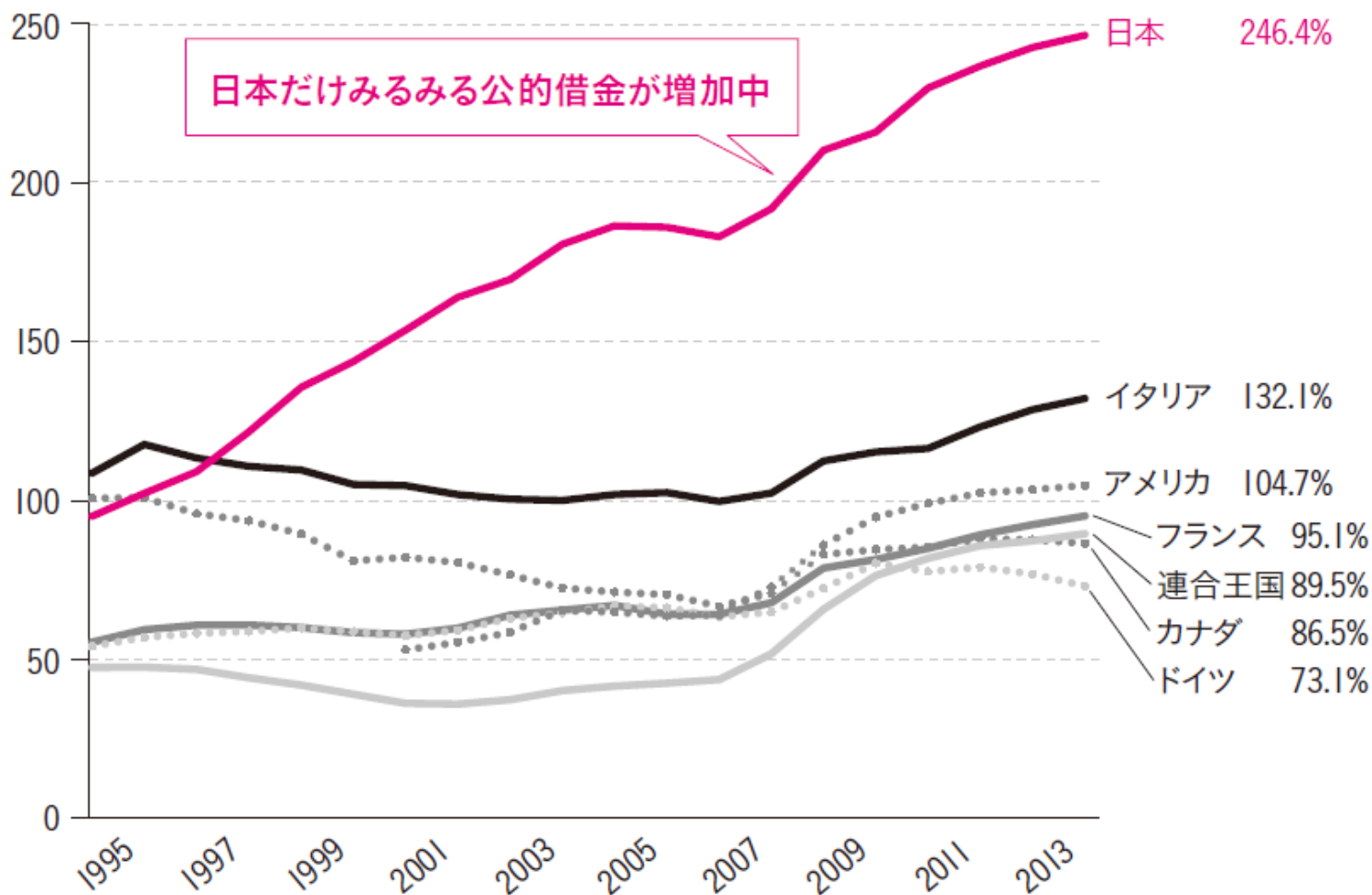
資料:内閣府「2014年版高齢社会白書」



# 4. 異常な財政赤字

## 主要国の公的債務残高の推移(対GDP比)

(単位:%)



データ:IMF「World Economic Outlook Database (2015.04)」

# 5. リーダーの不在

① 根本は一票の格差：『男性老人国』

② 国債は問題がないのか：95%※は国内で消化  
(※日本銀行 資金循環統計 平成25年12月末)

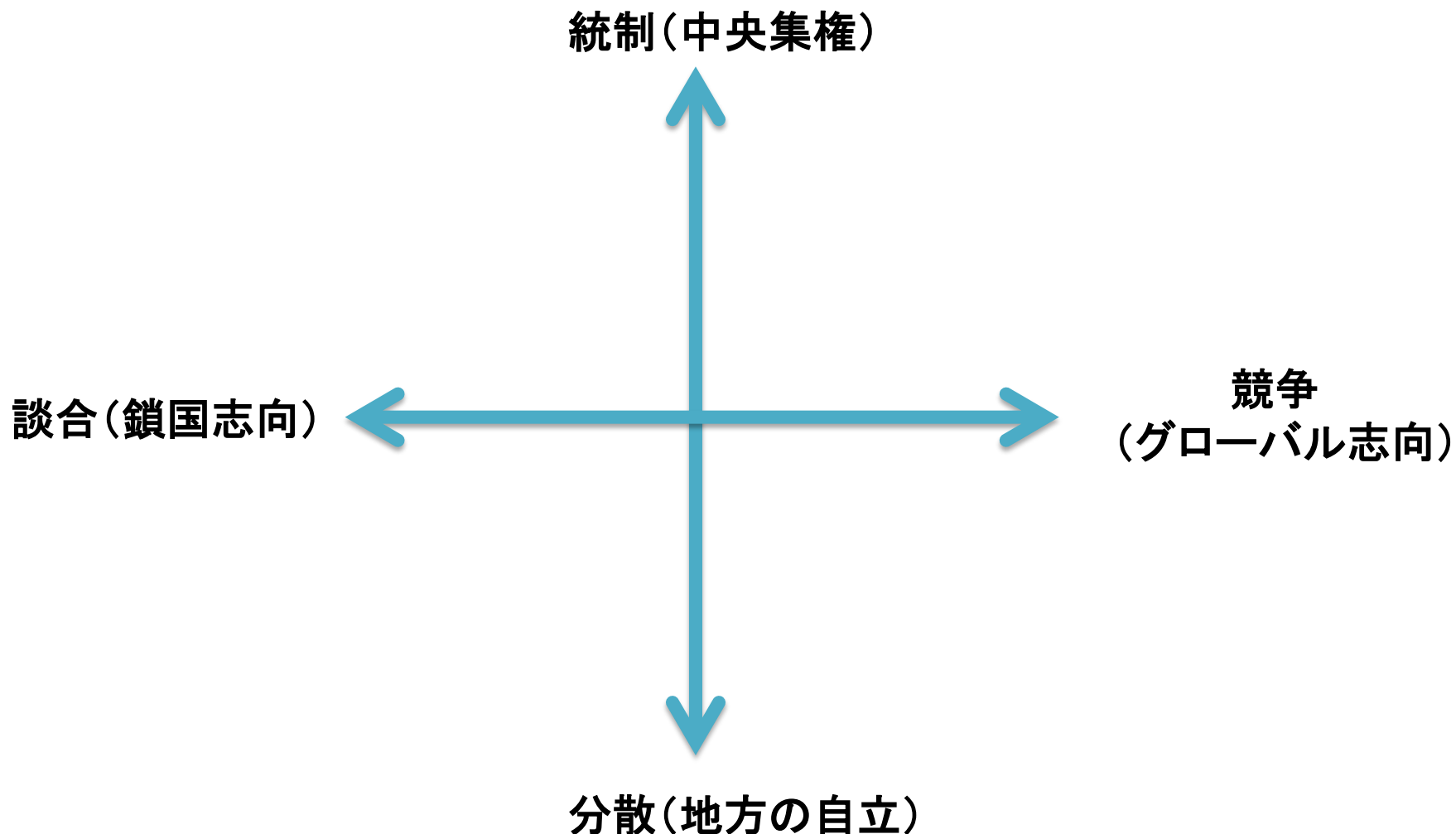
③ 「仕組み」の重要性

- ・ 市民やメディアの意識のせいなのか
- ・ インターネット投票

# 6. 日本経済の構造問題（1つ目のねじれ）

- ① 日本は何歳か？
- ② 中高年なら『高通貨、高金利』が常識
  - ・ お金に働いてもらう
- ③ 何故、『低通貨、低金利』政策に固執するか
  - ・ 異常な借金(財政赤字)
  - ・ 輸出主導経済(20歳の戦略)
- ④ 根本は少子高齢化
  - ・ 人口が減って栄えた国家や都市、地域は皆無

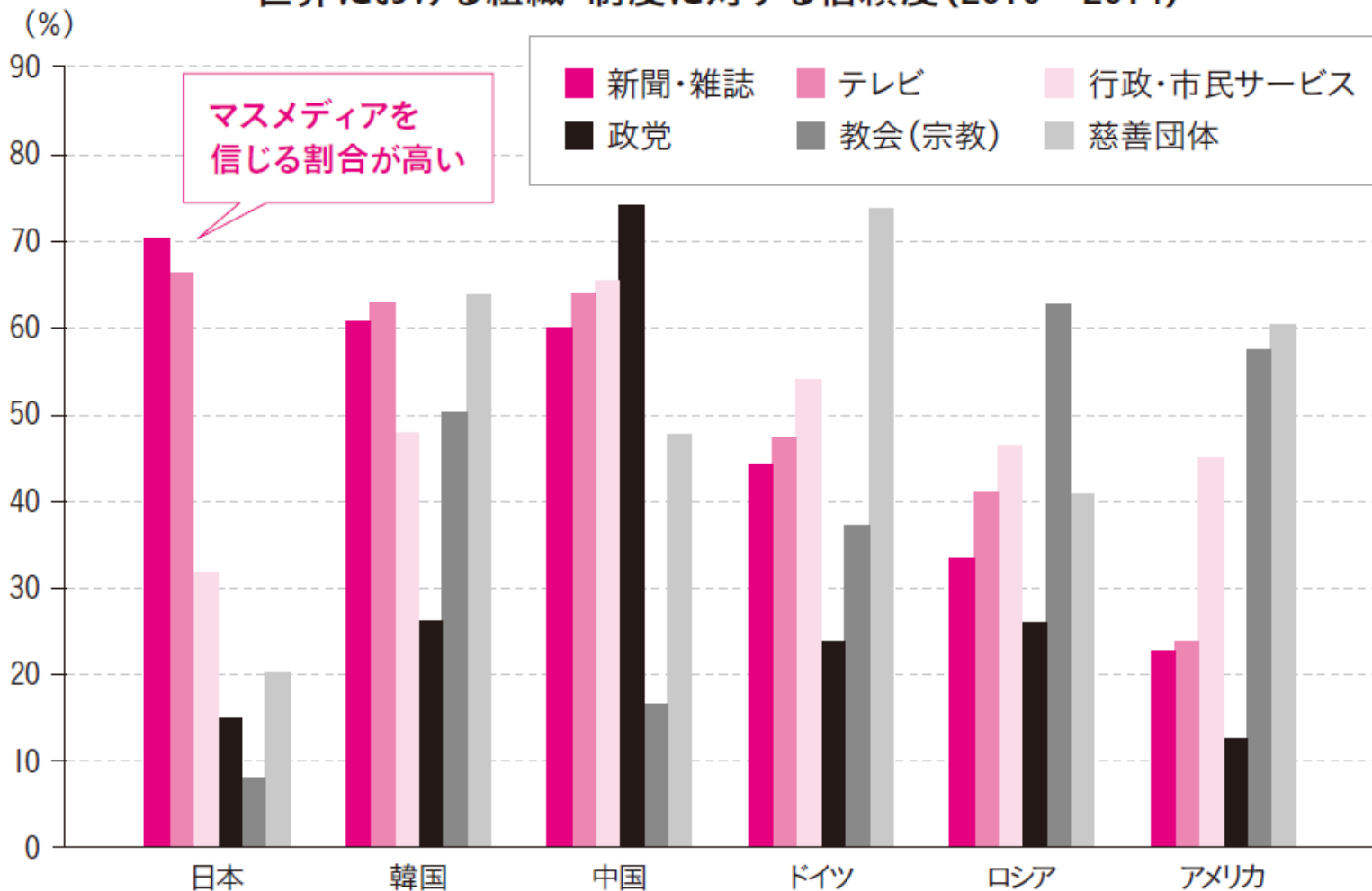
# 7. 政権交代の意義（2つ目のねじれ）



# 8. メディア vs 自分の頭で考える

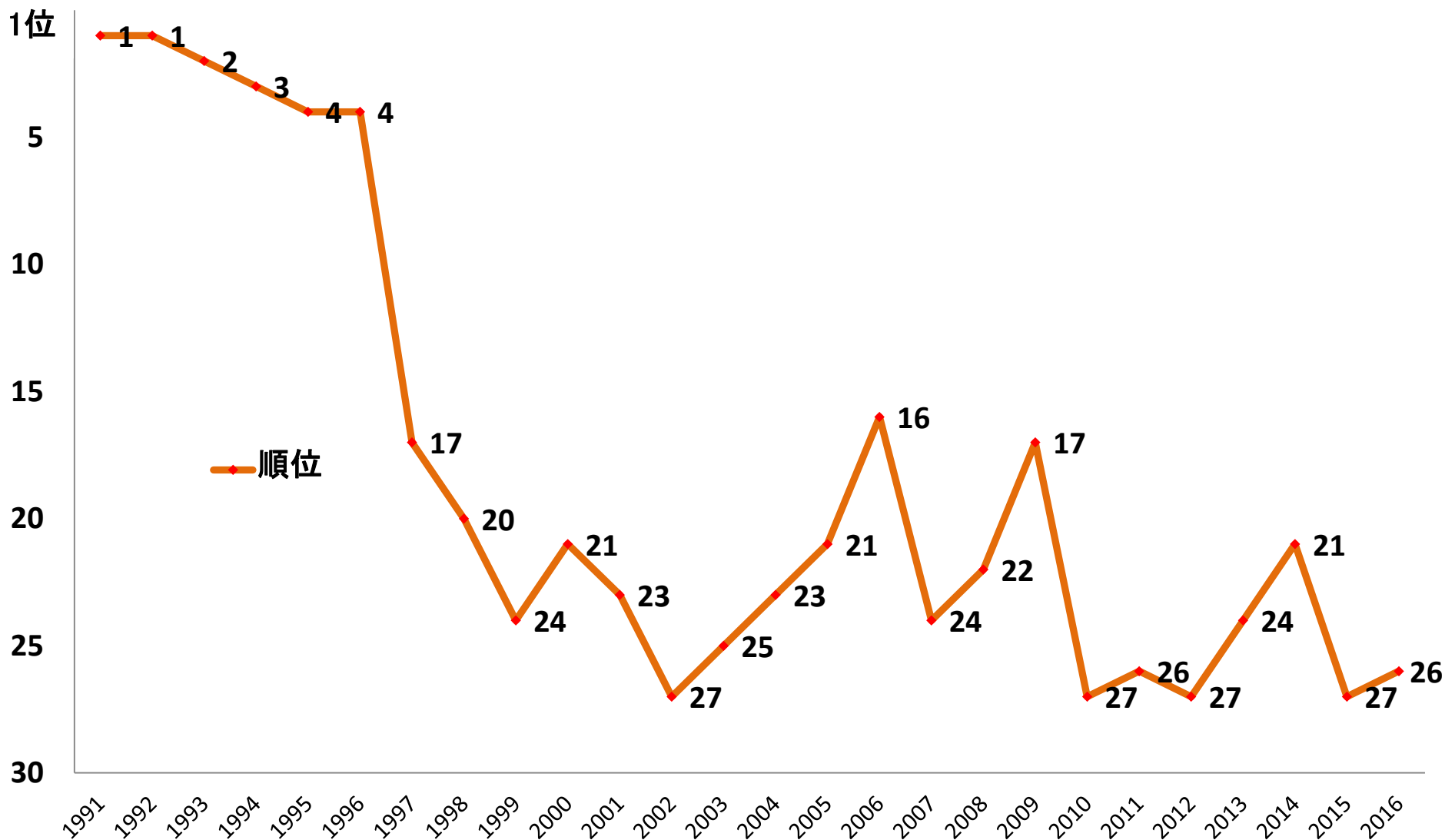
## (3つ目のねじれ)

世界における組織・制度に対する信頼度(2010~2014)



資料:世界価値観調査(WVS)Wave6

# 9. 日本の国際競争力の推移



出所：2008年以前の係数は、総務省公表「ICT成長力懇談会 最終報告 "x ICT" ビジョン」、  
2009年以降はIMD「World Competitiveness Yearbook」に基づく。

# 10. 日本が成長するには

- ◆ GDP = 人口 × 生産性
- ◆ 人口 → シラク3原則  
移民(学生)
- ◆ 生産性 → 労働の流動化

# 人・本・旅



# 1. 人から学ぶ

- ◆どうしたら人に会えるか
- ◆まず YES
- ◆ダメモトの重要性
- ◆人から何を学ぶか
- ◆ココ・シャネルの姿勢

## 2. 本から学ぶ

- ◆「古典を読んで分からなければ、自分がアホだと思いなさい。新著を読んで分からなければ、著者をアホだと思いなさい。」 恩師の言葉
- ◆木田元先生の「思考力の鍛錬」
- ◆古典の選び方、新著の選び方
- ◆速読を排す
- ◆読書の効率性—オバマに会えるか
- ◆仕組みの重要性

# 3. 旅から学ぶ

- ◆百聞は一見に如かず(漢書)
- ◆キツシンジャー 「人間はワインと同じ」
- ◆デカルト 「世間という大きな書物」
- ◆旅で何を見るのか
- ◆ヘロドトスの「ヒストリア」

# 4. ここがロドスだ、ここで跳べ

## ◆世界の三層構造の変化

・国家・企業・市民(ネットワーク)

◆「世界の中には、誰か一人の英雄によって変わるものではないけれど、みんなが少しずつ変わることによって、ゆっくりと、でも確実に変化する」  
「人生では生きられる時間も経験できることも限られている。その場その場で『これだ』と思ったことに賭ける以外に、やるべきことを見つける方法はあるだろうか？」

『働きながら、社会を変える。』  
慎 泰俊（英治出版）